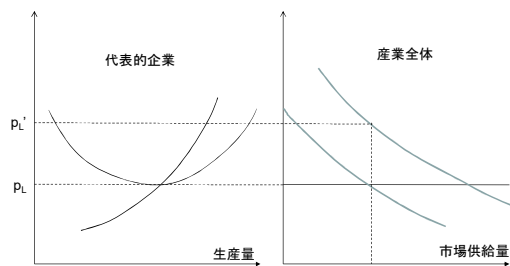


前回の問題

- 費用一定産業の長期均衡が、需要の増加により、どのように変化し、また、均衡を回復するかを、図を用いて説明してみましょう。この時、需要の変化の前後で、何が変化しているでしょう。

解答例



第9章 完全競争市場と効率性

部分均衡分析
消費の効率性
生産の効率性
消費と生産の効率性
社会的効率性の基準

9.1 部分均衡分析

完全競争市場

- 完全競争市場(Competitive market):
 - 多数の売り手と買い手
 - 個々の主体は小規模
 - 情報の完全性
 - 財の同質性
 - 一物一価
 - 自由な参入・退出

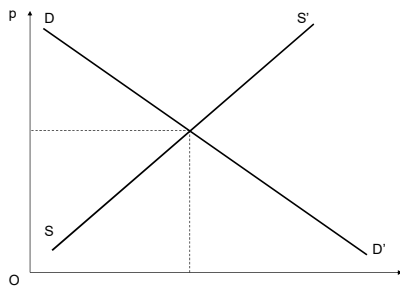
プライス・テイカー

- 競争市場 → 多数の経済主体
 - 個々の主体の行動は市場に影響しない
- 価格受容者(Price Taker)の行動
 - 個々の主体にとって市場価格は与件
 - 価格交渉の余地がない
- 価格に影響力がある場合
Price Makerの行動 → 不完全競争

市場均衡

- 市場均衡 (Market equilibrium):
 - 市場需要と市場供給が等しい状態
- 均衡価格 (Equilibrium price):
 - 市場均衡をもたらす価格
- 市場均衡にあれば
 - 全ての消費者は買いたいだけ買うことができる
 - 全ての生産者は売りたいだけ売ることができる
 - 誰も不満を持たない

均衡価格



5.3 消費者余剰

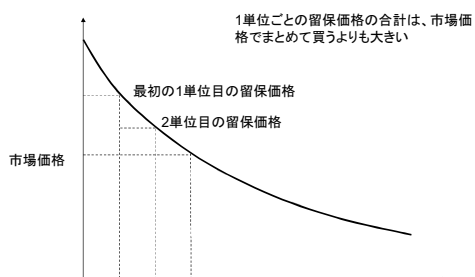
需要関数の読み替え

- 需要関数
 - 市場価格 → 需要量
- 逆需要関数
 - 需要量 → 価格
 - 売り手から見た需要関数
 - ある量 x を販売するためにつける価格
 - 買い手から見ると
 - ある量 x を購入してもよいと思う価格

留保価格

- 留保価格(Reservation Price):
 - ある財に対して支払ってもよいと思う最高金額
 - ある財に対する主観的評価を金額で表す
- 逆需要関数
 - 需要量 → 留保価格
- 留保価格は主観的評価
 - 効用関数に関係

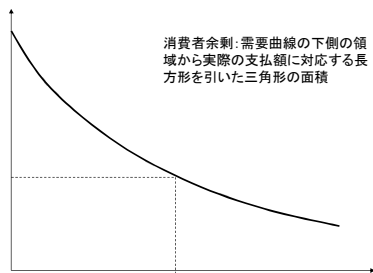
留保価格と需要量



留保価格と消費者余剰

- 市場価格で財を購入
 - 留保価格－市場価格＝余剰
 - 消費者余剰＝余剰の総和
 - ＝市場取引により得た余剰
- 消費者余剰(Consumer's surplus):
 - 支払ってもよい総額が、実際に市場で支払う総額を超過する額
 - 取引に参加することによる利益を金額で示すもの

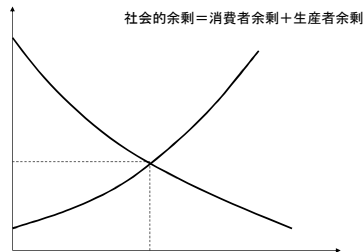
消費者余剰と需要曲線



貨幣の限界効用一定

- 経済的余剰は効用の変化で測るべき
 - 消費者余剰は金額; 効用の変化なのか?
- 貨幣の限界効用一定
 - 第1財以外をひとまとめ → 第2財を貨幣と考える
 - 貨幣の価格＝1
 - 効用最大化の条件
$$\frac{MU_1}{p_1} = \frac{MU_2}{p_2} = \frac{1}{k} \Rightarrow p_1 = k \cdot MU_1$$
 - 留保価格と限界効用は比例
 - → 消費者余剰＝効用の変化

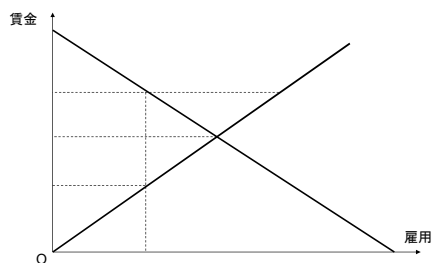
社会的総余剰

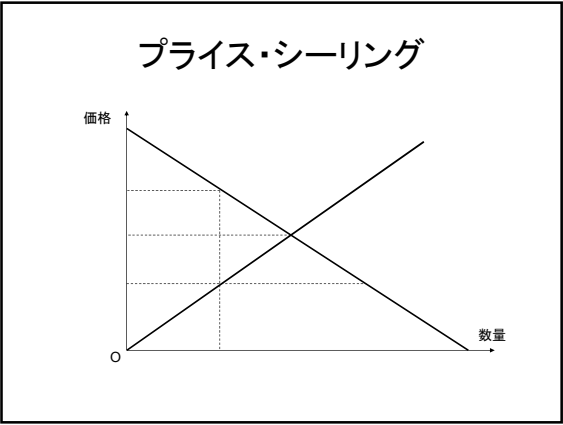


価格規制と余剰

- 価格規制(Price regulation):
 - 法律などにより、価格の上限・下限を決定する
 - 最低賃金法、規制緩和前のタクシー料金
 - 均衡価格 > 下限 → 問題なし
 - 均衡価格 < 下限 の場合
 - どうなるの？

最低賃金





- 価格規制の非効率性**
- 価格規制
 - 市場の資源配分機能をゆがめる
 - → 総余剰の減少
 - 規制緩和 → 価格は市場で決定
 - 市場に任せるときに効率的
 - → 総余剰の最大化
 - アダム・スミスの「神の見えざる手」
 - 厚生経済学の第1定理

今日の問題
